

ドロボー

テレビは時間ドロボーである。疲れて家に帰ってきて、もうなんにもする気が
しないときなど、ついテレビをつけると、なんだかにぎやかに騒いでいたり、その
日のスポーツの結果を繰り返し映したりしているから、ぼーっと見てしまう。見て
いる番組が終わると今度はもの足りなくなって、チャンネル切り替えのコントロー
ラーを探し出し、パッパッパッと、じつに便利に画面を変えていく。あんまり見た
いと思う番組はなくても、ピーナツを食べはじめたのと同じで、中毒に近くな
っている。無いとももの足りないから、画面を消さないのである。

そうやって30分単位で時間を盗まれ続けて、結局深夜の映画を見終わっ
たら、明け方の4時に近かった、という経験がある。それですっかり生活のリズム
が狂ってしまう。目に悪い、体に悪い、アタマに悪い、などと勝手なことを言う
けれど、テレビ局としては、どんな手段を使っても、視聴者を画面に惹きつけ
ておくのが商売であるから、それに引かかるとこちらが悪いのである。

翌日、人に会って、昨日のテレビの話をしてみると、みんな見ていたと見え
て、じつによく話が通じる。みんな時間ドロボーにあっていたのである。その時
間に頭を使って読書をする、会話を交わすというのではなく、みんな私と同じ
ようにぼんやりして、光り輝く画面を眺めてアホになっていたのである。

逆にテレビを見ていなければ、人と話が通じない。マンガを読んでも、ギャ

グが^{わか}解らない、クロスワードパズルも^と解けないということになる。

しず ^{あき} ^{つき} ^{なが} ^け ^{でんとう} ^け ^{まど} ^あ ^{はな}
静かに秋の月でも眺めようと、テレビを消し、電灯も消して窓を開け放つと、

りん ^か ^{だいおんせい} ^{わら} ^こ
隣家のテレビの大音声とバカ笑いがとび込んでくる。